

第 1 回 向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 会議録

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	■ 開会 ○ただ今から第1回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会を開会する。 ○はじめに、黒田都市計画局長、及び久保伏見区長より挨拶をさせていただく。
黒田都市計画局長	◆ 都市計画局長あいさつ ○本日は本検討委員会に御出席を賜り、また、委員をお引き受けいただいたことに感謝申し上げたい。 ○向島ニュータウンは大規模ニュータウンであり、昭和47年3月に着工、昭和52年4月から入居が開始され、多くの住宅とそれを支えるインフラが整備された、京都市の重要な財産である。 ○しかしながら、入居から約40年が経過し、様々な課題が生じている。少子高齢化が進み、人口も減少している。それに伴い、地域コミュニティ活動の担い手が不足し、商業施設の活力が低下している。また、一部の施設は老朽化が進み、設備や仕様等の面でも現在のニーズに合わない部分が出ている。 ○そのため、子育て、多世代、多文化共生、安心・安全など多種多様な角度からこのニュータウンの活性化策を検討していかなければならないが、これは行政だけでは方向性を決めるべきものではないので、ニュータウンの住民の皆様、社会活動、事業活動を展開されている皆様方がどのようなまちづくりを望んでおられるのか、また将来のまちの実現に向けて一体となってどのような取組を行っていく必要があるのか等を十分に議論し、行政と共に知恵と力を出し合えるように本検討会が立ち上げられた次第である。 ○本検討会はこの場の議論も基に、最終的には向島ニュータウンまちづくりビジョンを策定し、目指すべきまちづくりの方針と重点的に取り組んでいく内容を取りまとめたと考えている。この検討会での議論、そしてそれを基にしたまちづくりビジョンの取組は、京都、また、全国のニュータウンをリードするモデルになる可能性を秘めているものと強く確信しているので、皆様方には闊達な御議論をお願いしたい。
久保伏見区長	◆ 伏見区長あいさつ ○向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会の第1回会議に多数御出席を頂き、区役所としても心より感謝を申し上げる。また、日頃は広く区役所や市役所の取組に御理解、御協力を頂いており、厚くお礼を申し上げたい。 ○向島は太閤秀吉が名付け親と言われ、月見の城や太閤堤も築かれ、また徳川家康も居を構えたという歴史がある。また、広大な田園地帯も広がり、一方

	では昭和40年代後半に向島ニュータウンの建設が始まる等, 新しいまちづくりも進められてきた。 ○こうした多面的な顔を持つ向島の中でニュータウンが開設から40年を経過し, 少子高齢化や若者の流出, またハード面の老朽化が進む等, いろいろな問題が起きているため, 行政と住民の皆さんが協働した活性化策の推進が必要になっている。 ○そういう中で, PTAや住民の方々等が自ら, 学校, 教育委員会とともに学校統合や小中一貫校の創設, 大学と共同した多彩なまちづくりを進められていることがこの会議につながったと意義深く感じている。この会議では, 骨太のまちづくりビジョンを策定し, また向島地域全体の今後の発展にもつながるよう, 伏見区役所も皆さんと共に取り組みたいと考えているので, 御理解, 御協力をよろしくお願いしたい。 (黒田局長, 久保区長 公務のため退席)
事務局	◆ 趣旨説明 ○向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会の開催に当たって本会議の趣旨を説明する。(資料1について説明)
事務局	◆ 開催要綱 (資料2について説明)
事務局	◆ 委員紹介 ○本会議の委員の皆様の御紹介を事務局からさせていただく。 (資料3に基づき, 各委員を紹介)
事務局	◆ 会長指名 ○要綱の第4条に基づき, 本会議の会長の指名を行う。 ○会長の指名は市長が委員の中から指名することとなっており, 市長は京都大学大学院工学研究科教授の高田委員を会長に指名しているので, 高田委員にお願いしたい。 ○以降, 各議題に関する意見交換の議事進行は高田会長にお願いする。
会長	◆ 会長あいさつ ○住宅の調査で何度か向島ニュータウンを訪れたことがあるが, 特にニュータウン問題を研究してきたわけではないので, 必ずしも会長に適任ではないの

	ではないかと考えたが、地元の皆さん方、京都文教大学の先生方がニュータウンの再生に熱心に活動されているので、できる範囲でお役に立ちたいと思い、お引き受けした。 ○ただ、全国のニュータウンで再生、再編の問題について議論されているように、簡単には結論が出ない大変に重い課題を抱えているので、皆様方の様々な意見や普段からの活動の経験等をすべて出していただいて、それを上手く取りまとめていかなければ次のステップは見えてこないと考えている。 ○このような問題は、前向きに考えて、いろいろな人が力を合わせて検討していくことが重要である。他のニュータウンでも同じような検討が行われているので、そういうところとも連携を取りながら、向島ニュータウンの次のステップを踏み出していただければと思う。皆様方の御協力をお願いしたい。
会長	◆ 職務代理者指名 ○要綱の第4条第3項により会長は職務代理を指名することになっているので、京都文教大学の杉本先生をお願いしたい。
会長	■ 議事 1 向島ニュータウンの現状と課題について 2 まちづくりビジョン検討のための視点について ○それでは議事に入るが、「1 向島ニュータウンの現状と課題について」と「2 まちづくりビジョン検討のための視点について」という議題に対して、事務局から資を説明していただく。
事務局	(資料4, 5について説明)
会長	○ただ今の説明に対して御質問、御意見を頂きたいが、第1回目なので普段考えられていること、この検討会で議論すべきと思われる点も御発言いただきたい。
委員	◆ 現状の不公平感と複雑な学区関係、市の取組姿勢について ○私は1981年に二の丸北学区に入居し、35年間住んでいる。以前は東京の豊島五丁目団地に入居していたが、転勤でこちらに移った時に、東京と比べて価格が安く、地の利が良いので、とびついてすぐに入居を決めた。 ○この間、色んな要望をしてきたが、なかなか取り入れられなかった。伏見区全体の問題として、10年ほど前に洛西の方でビジョン策定に向けての検討会が設立された時に、市政協力委員連絡協議会代表として向島ニュータウンの

	検討会の設立も要望したが、叶えられなかった。それをようやく設置していただき、スタートを切れて喜んでいる。 ○ただ、このニュータウンは当初、10街区、11街区が分譲の予定だったが、駅前が寂しい、団地内部の交通の流れ等の問題もあり、我々の入居後に用途変更で10街区、11街区が市営住宅になり、現在は6.3割が市営住宅となっている。一方で、分譲は固定資産税が年平均7万円×1,665世帯で年間1億強、40年間で40～50億円を払っており、不公平感を持っていた。 ○ニュータウンを再生するなら、そういうところを含めたビジョンづくりが求められる。例えば、居場所づくりや生涯学習等の問題がある中で、市営住宅だけの再生になるのか、向島学区、向島南学区も含めたビジョンづくりに発展するのか、また、この地域は3つの学区があり、小中一貫校は向島南とニュータウンの二の丸、二の丸北の3つの学区を含み、旧の向島と新が絡まるような形になる。また、包括ケアシステムについては、5つの学区の中に1つのシステムができる。このように、行政では学区ごとに取組をされているが、場合に応じてニュータウンという括りになったり、南学区が絡んだり、藤の木学区が向島学区と一緒にになって向島東中学校区になったり、組織的に複雑に絡み合っている。そういうことも含めた再生になるのか。 ○もう1つ、市はこの取組にどのくらいの予算を出す心構えがあるのか、市側の取組の基本になる部分を教えていただきたい。
会長	○最後に質問があったので、京都市のスタンスを説明していただきたい。
事務局	○行政の立場としてビジョンで謳っていくことについては、関係部署と調整しながら必要な予算措置について庁内で考えていきたい。
事務局	○京プランの新しい「実施計画」は京都市の計画であり、議会にも報告しているが、その中で、ビジョンを策定し、推進していくということで、京都市全体として取り組んでいくという方向性を示している。 ○しかし、市の財政関係は大変厳しく、このプランに載ったから必ず重点的に取り組まれるかという点、今後、財政当局との調整も必要である。我々としては、ビジョンが策定され、取組方針が決まったら、是非ともその方針で進めていきたいと考えているが、ハード整備とソフト事業があり、行政は地域的に公平性の観点も重視しつつ、まずは都市インフラを活かすという立場からしっかりと予算を獲得することも目指し、取り組んでいきたいと考えている。

会長	○このビジョン検討会の性格として、元々落としどころが決まっているものを議論するのではなく、むしろ「何をするべきか」ということを提案していただいて、それをまとめてこれからのまちづくりのあり方を考えることになると思うので、是非とも積極的な御提案を頂きたい。
委員	◆ 課題の提起と提案について ○まず、東九条に京都市地域多文化ネットワークサロンができており、多文化共生について機能している。また、小栗栖団地にも中国からの帰国者が多く住まれていて、パセオ・ダイゴローを利用して自助グループが活発に活動し、効果を上げている。 ○2つ目に、自治会から抜ける人が増えているので、自治会加入のメリットを真剣に考える必要があるのではないか。 ○3つ目に、名古屋から始まったと言われる「まちの縁側」という活動があり、プライベート空間とパブリック空間の間のような空間の機能で、例えば、長野市は35～36万人都市で5,000ヶ所も「まちの縁側」をつくると言われている。京都文教マイタウン向島(以下MJ)も同じような機能だと思うが、そういう新しい交流空間を意図的に組織していく必要があるのではないか。 ○4つ目に、ひとり親家庭が多いということで、エンパワメント(※)の視点から自助グループを意識的につくって支援していく必要があるのではないか。 ○5つ目に、生活保護受給者が多いという点についても、意識的に計画の中に位置づける必要があるのではないか。生活保護法では自立支援があるが、実態としては十分に機能していないので、より総合的なアプローチが必要ではないか。訪問して支援していくアウトリーチも含めて、生活保護受給者が将来設計を持てるような関わりも組織的、モデル的に行う必要があると思う。 ※ エンパワメント・・・自分自身の生活や環境を、よりコントロールできるようにしていくこと
会長	○具体的な課題として、自治会加入の問題、ひとり親世帯の問題、子育て支援の問題、生活保護の問題等を挙げていただいた。また、多文化共生の問題、まちの縁側の問題については、他の事例を調べて向島に取り込めるものを入れてはどうかという提案を頂いた。関連する意見等はないか。

委員	◆ 学区の問題と、現状認識に必要な情報について ○先ほどの委員からの質問で大事な部分を答えられていないと思う。学区単位、オールニュータウン、学区が集まった中学校区等、いくつかのコミュニティの単位があるので、それをどのように整理しながら、あるいはどのような形で進めるのかという質問である。実際に統廃合の問題も出ており、藤の木小学校は別の方になることと、オール向島の話等をどう整理していくのか、そういう課題を指摘されたと思うので、それに対する回答を頂きたい。 ○また、現状をきちんと把握したいが、住民の方は当然知っていることも私などは分からないので、頂きたい資料を挙げておく。 ①市営住宅の空き家化について、京都市の中では空き家率が低いと言われるが、その理由を分析されているのか、分かっているところを伺いたい。 ②公団賃貸の現状はどうなっているのか。 ③外国籍入居者の割合が高いとあるが、現状、どのくらいの人がいて、どのようなコミュニティを形成しているのか。ニュータウンの中でどのような関わり方をしているのか、どのような問題があるのか。 ④商業施設の活性化について、元々ニュータウンは昔ながらの住区理論の中で真ん中に商業施設をつくっていたが、思う通りに展開されていない。向島ニュータウンの現状はどうなのか。買い物難民の話も聞いているので、現状を整理したものがあれば教えていただきたい。 ⑤MJの活動はどのように評価されているのか。どこまでできて、どこができていないのか、本プロジェクトの中でどのように受け止めていくのか。 ⑥学校の跡地利用の話と合わせて、24号線でニュータウンが東西に分断されているが、それをどうしていくのか。 ⑦一団地設計の見直しその他については、今年度にビジョンを議論して一団地設計の見直しまでつなげられるのか。本来、じっくり考えなければならない部分もあると思うので、タイムスケジュールはどうなっているのか。
会長	○多くの部分は資料請求として次回以降に整理して出していただきたいが、今答えられる部分があれば説明をお願いしたい。
事務局	○向島学区は24号線で学区が分れているが、元々は向島駅前の葬儀場建設をきっかけに西側はいろいろな取組をしている。その中で、昨年着手する際に、京都文教大学と共に行ったアンケートをベースに藤の木学区でもアンケートを行い、方向性としては同じような意見もあったので、一体化を図るべく声掛けをして設定できた。当初から24号線を挟んだ統一感をどうするかとい

会長	う課題があり、今後、議論をしていただきたい。 ○学校跡地活用に関係で向島ニュータウン外からも人が来るため、向島、向島南学区の会長にも参加していただいた。外からもいろいろな意見を頂いて、向島ニュータウンと外との連携をどのように図れば良いか、方針をまとめた。 ○その他、いろいろな資料の請求があったので、それについてはまとめて後に説明するWGにおいて説明する等してお伝えしたい。行政が分かる部分はすぐにまとめて、公団の状況についても回答できると思う。商業施設の活性化についても事業者に入ってもらってまとめたいと思う。 ○日程については、我々としては何とかまとめて方向性を決めたいと考えている。拙速に行ってはならないという御指摘も頂いている。それについては議論の状況を見た上で進めたいと思うが、議論ばかり重ねるのではなく、考え方をまとめた中でどうすれば活性化につながるかを検討し、それを京都市の予算化や施策化によっても図っていききたい。 ○一団地は難しい問題なので、それも念頭に置いて計画策定を進めたい。 ○一団地の問題は法律上の問題もあるが、UR等で先行的な検討も始まっているのでしっかりと議論しつつ、単年度で終わる話ではないため、関連づけて考えなければならないと思う。次回以降、議論の一部としたい。
委員	◆ コミュニティ再生と住民の意見の収集について ○向島駅前まちづくり協議会で公園清掃や祭りを開催しているが、住民の参加が少ない。高齢化もあって活動の輪が広がらない。今回のビジョンづくりの視点のベースとして、地域のコミュニティの再生は大きな課題になると思う。絵に描いた餅にならないよう、住民の声を十分に聴くことが重要である。 ○住民側は、ビジョンづくりを通じて住民自身が「何が必要か」を考える機会になると期待している。 ○住民としてはエリアの考え方について、包括支援センターが1つのエリアとして対応しているので、今回は向島ニュータウンのエリアだが、向島学区と向島南学区にも意見を聴いて進めていただきたい。
委員	◆ 子育て、教育環境の整備について ○ハード面の視点が多いと思うが、中学校校長の立場としては、子育てや教育の環境をどう整備するのかという視点が外せない。小中一貫校創設に当たってはプレッシャーを感じている。良い学校をつくると転出した人々が戻って

委員	来たという御所南の例のようになると良いと思う。そういう教育環境，子育て環境をどのように整備するかという視点をビジョンの中に入れてほしい。 ○その中で，小中だけではなく，保幼，大学とも連携した教育のあり方も模索していきたいと考えている。 ◆ 学区を越えた一体的な考え方について ○ニュータウンの一体的な考え方がこの検討会でどのように作られていくのかが大事である。 ○MJでは学習支援等で子どもたちと関わっている。当初は向島二の丸，二の丸北の学区の子どもたちばかりだったが，最近は藤の木学区の子どもたちも来ており，子どもたちはすでに一体化し始めている。宇治市の槇島からも来ている子もいる。子どもに垣根はないので，大人たちがいかに精神的な垣根を取り払って一体的に取り組んでいくかということが重要である。 ○資料5の裏面「まちづくりビジョンを検討する視点」の4に「跡地利用」や「駅前活性化」という言葉があるが，藤の木学区側にもスポーツクラブ等の跡地がある。これは所有が京都市ではなく，住宅供給公社が管理をしており，ここに挙がっていないが，ニュータウン全体で考える場合は大きな課題となる。どの学区であっても，すべて一緒に考えることが必要になると思う。
委員	◆ 防災問題への対応について ○WGの中で検討されると思うが，防災の問題は，向島学区，向島南学区両方も含めて考えなければはならない。特に災害弱者の高齢者，障がい者についてはニュータウンだけの問題ではないので，どのように協力するかということも含めて，防災関連は全体的な視野で考えることが必要である。
会長	○コミュニティの単位をどのように考えて，何をどのような単位で検討すれば良いかという本質的な課題が，最初に質問された。それは何らかの形でしっかりと議論しなければならないが，検討の対象についてはここで決めれば良いので，今，皆さんから出された意見は，否定する意見が出ない限り，そのような方向で議論して良いと思う。
委員	◆ 外国系代表者の参加の必要性について ○外国籍の人が多くと書かれているが，日本国籍で外国系の方も多く，トータルすると1,000件を超える中国系の方，帰国者ルーツの方がおられ，推計20%くらいになると思う。しかし，この会にその代表者が1人もいない。自治会

	活動でも住民同士のトラブル等が起きているので、会が進む過程で、代表として適当な方が見つかった段階で、追加でこの会に入っていただくことを会長判断でお願いしたい。
会長	○委員であるかどうかは別として、その問題は重要な課題なので、WGの活動も含めて、インタビュー等、十分な情報収集を考えていくべきだと思う。委員に追加した方が良いという御意見だが、最終は事務局側の判断になるので、そういう御意見が出たことを受け止めて御検討いただければと思う。
委員	◆ ハード面の整備についての市の姿勢について ○ハード面、ソフト面からいろいろな意見が出ており、社協でもいろいろな取組をしているが、民協、包括支援センター等の扱いはソフトに類する部分が重要で、ここの取組はそれを充実させる横との有機的なつながりの強化が必要なので、この場で確認しながら進めていきたい。 ○むしろ、前段階のヒアリング調査ではソフト面を捉えた話のウェイトが高かったように思うが、ハード面の整備に関して、京都市の本気度はどうなのか。二の丸、二の丸北は個々の棟に20～30人収容の集会室はあっても、全体で集まれるコミュニティの場がないので、市から地域の中核になるような場を提供してほしい。向島図書館の2階の使用を要望しているが、良い回答をもらえないまま10数年が経過している。 ○交通の面では、買い物難民の問題もあるが、伏見の中でも醍醐地区がコミュニティバスを走らせているのに対して、向島地区は近鉄バスの本数が少なく、買い物や通院に使えるほど整備されていない。そういう交通インフラを含めた問題をどの程度考えているのか、ハード面の整備をどこまでしようとしているのか、本気度を示すものを前段階で示してほしい。今後進める中では、30～40年前の考え方ではなく、現状に合った形のハード面の整備を提供してほしいし、それなりの予算も出していただきたい。
会長	○ソフト面はもちろん、ハード面の問題についてもしっかりと検討すべきだという御意見である。ハードとソフトの境界は明確に分けるべきものではなく、連続的なものだと思う。私は建築の専門だが、最近の建築の仕事はソフトとハードをつなげて、既存の建物やインフラをどのように活かすかということを考えるので、既存のものを壊して新たに建替えるという発想ではなく、図書館の床利用を考えるのも典型的な話だと思う。さらにいろいろなことが考えられると思うので、是非御提案いただきたい。

委員	◆ マイナスをプラスに読み替えるまちづくり ○向島ニュータウンの課題を出されているが、中国人の入居者が多いというのは多文化共生という視点で素晴らしいことだと思う。その良さを見ながら、どのように地域の人たちと共に多文化共生のまちをつくるかという視点での読み返しを進めた方が、より豊かなまちづくりになる。 ○「当事者が参加していない」という指摘があったが、向島ニュータウンのもう1つの良さは、市営住宅の中にバリアフリーの住戸が54戸あることである。これは京都市内の市営住宅のバリアフリー住宅の約1/3に当たる。1977年につくられたにも関わらず、車椅子の方が多く住まれることを想定してつくられている。 ○しかし、ハードは整備されていても、住民が豊かに暮らせるまちづくりとして、京都市にデイサービスセンターをつくる計画はなかった。そのため、我々が京都市と車椅子利用者と一緒に話し合う中で、ここに皆が集まれる場所をつくってほしいという要望があった。各街区に集会所はあるが、その街区の人しか使えないので、各街区にバリアフリー住宅があり、それぞれ1人暮らしの方がいて昼間は介護がないという状況でも、集会所に他の街区の人が集まることができなかった。そこで、京都市に対してエレベータの整備を要望しつつ、デイサービスの施設をつくるという流れがあった。 ○障害のある方もここに長く住まれているし、空きが出ると同じく障害のある方がバリアフリー住宅を求めて入居されているので、高齢者も多いことを考えると、高齢者や障がい者が住みやすいまちは、他の人にとっても住みやすいまちになると思う。 ○したがって、多文化共生やユニバーサルデザインのまちづくりという視点から、向島は高齢者や障がい者が多く住んでいる素晴らしいまちで、向島にきた子どもたちは、そういう人たちと小さい頃から触れ合うことで当たり前のように違いを認め合い、気持ちの優しい子どもに育つ。そういうまちづくりが期待される。そのようにマイナス面をプラスに読み替えるところから、まちづくりをしていくと良いと思う。
会長	○徐々にビジョンの内容の議論に入っているようだが、他にはいかがか。
委員	◆ 福祉のまちづくり、住民参画の仕掛けづくり、多世代交流の場づくり ○私も障がい者に関わっているが、障がい者のサポートをしている人たちが家族も含めてグループホームをつくりたいという活動をして、ハードルが上がっていてなかなかつくれない。市営住宅等をそのような形で活用すると、

	福祉のまちという新しい活力が生まれる可能性があるのではないかと。 ○また、先ほど来 의견を伺って、「ビジョンづくりを通じて住民自身が「何が必要か」を考える機会になる」との意見は一番大事ではないかと思う。代表の方でWGをすることも重要であり、集約すること、統合化することも重要だが、一人ひとりの住民に「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」という機運が盛り上がるのが最も大事である。ビジョン検討に参画する方法として、トップダウンとボトムアップの両方が必要だが、タウンミーティングや懇話会のような形で、最初から住民が参画する仕掛けも必要ではないか。もちろんフィードバックも徹底的に行う必要があるが、是非とも住民参画の仕掛けをお願いしたい。 ○多世代交流の話があったが、私は砂川小学校の理事をしており、砂川小学校3年生全員とPTAと地域の方々と多世代交流会を11年間行っている。自治会と小学校と学生の主催だが、そのような多世代交流の仕掛けを小中学校からお願いしたい。災害時に一番活躍するのは中学生と言われているので、その辺りのことも中学校から発信していただきたい。
会長	○参画の仕掛けについては、WGの進め方の中で工夫できる余地があると思うので、それも含めて御検討いただければと思う。
委員	◆ 商業施設の活性化に対する住宅供給公社の姿勢について ○商業施設の活性化という話が常に出てくるが、我々がいくら語っても、住宅供給公社の方針が重要で、何年も空き店舗が放置されている。その点も入店条件も含めて何とかしてほしいと常に要望している。商業施設は日々の生活に密接につながるが、ニーズに応えられる商売をしているところがない。住宅供給公社の賃貸店舗で、他所のように自然発生的に商店街ができて、そこに住まいがあるような形ではないので、我々ができる範囲は限られている。住宅供給公社の考えを明確にしてもらわなければ、我々は動けない。
会長	○そういう議論はこれまでも行われてきたのか。
委員	○行っているが、事態は変わらない。
会長	○それでは、公社の方から説明をいただきたい。
委員	○昭和52年にまち開きをして、昭和53年から店舗展開している状況で、はじ

	めの頃はそこに行けばすべてが揃うようにバランス良く配置していたが、ニーズの変化や近隣への大型店舗出店等があり、変遷があった。現在も3店舗ほど空きがあり、空いたところに店ではなく中継基地のようなものを入れたりしているので、住民のニーズにマッチしている状況ではなくなっている。今後、住民のニーズを捉えて利用できるものを展開していく必要がある。これまでもそのような考え方ではあったが、活性化に向けてもう1つ上を目指して進めていきたいと考えている。
会長	○このビジョンの議論の中では終わらないと思うが、公社としても商業施設の経営方法についての提案等も出していただいて、根本的な議論をしていただきたいと考えているようである。どのように議論して、どういうアウトプットをするかはこれからの議論になると思うが、これも今回の検討の対象として考えることになっていると思う。 ○どのような議論をするべきかという話は次回以降も続くし、何らかの議論が起これば展開していくと思うので、固定的に考えない方が良いと思う。
委員	○先ほど現状を整理してほしいとお願いしたのは、今のような話をそれぞれのところで把握したり、やり取りしたりしていると思うので、そういう話を一度平場で羅列してほしいということである。どうするかという話はこれから考えなければならないが、少なくとも「ここまでは分かっている」というところで京都市がどう認識しているかを整理して、皆に渡していただけることは非常に重要と考えての要望である。
会長	3 ワーキンググループ（WG）の開催について ○続いて、WGの問題について説明、御意見をいただきたい。まず、事務局から資料6の説明をしていただく。
事務局	○（資料6について説明）
会長	○具体的に7つのWGの案が出ているが、それに対して質問や意見はないか。
委員	◆ 高齢者・障がい者暮らし安心 WG について、健康づくりの提案について ○介護予防・認知症予防と居場所づくりは複合的に考えられるのが当然であり、分けて考える必要はないと思う。 ○「中国帰国者・多文化共生WG」の中にも「介護予防、認知症予防」とある

	ので、「高齢者・障がい者暮らし安心WG」の中に中国帰国者はいれないのか。我々は分けて担当しているわけではないので、同じ中で考えて良いと思う。 ○1つ加えるなら、京都市は健康寿命の延伸にも力を入れているようだが、子どもの時からの健康づくりが生活習慣となって成人、高齢者とつながっていくので、そういう視点のものも取り入れることを考えてほしい。
会長	○健康の話は「子育て充実WG」のところなのか、どこに入るのか。
委員	○どちらでも結構である。
会長	○いずれにしても、健康問題も加えてはどうかという提案である。
委員	◆ WGへの参加者について ○2, 3, 4, 7街区は分譲で、各共用施設管理組合があり、1,665世帯あるが、その代表が加わっていない。自治会の有無の違いもあり、管理組合がコミュニティ部分を担っているところもあり、複雑な組織になっているが、そこもWGへ加えてほしい。
委員	○想定メンバーの中に各自治会の会長も入れてほしい。二の丸学区の中にも1街区, 5街区, 6街区があり、街区の様子を一番把握しているのは自治会長だと思うので、是非入れてほしい。
委員	◆ WGの持ち方とWG間の連携, 検討会, 行政との関係について ○WGの持ち方, 性格を検討会で合意しておかなければならないと思う。 ○想定メンバーの増加を認める話は大事である。各グループの判断で聞きたい人を呼んだり, オープンな場をつくったりするという考え方にしてほしい。 ○もう1点, 居場所づくりの話, 中国帰国者の介護は別にするのかという話が出ているが, 中国帰国者からもそういう話が出てくるのであれば, 検討事項そのものもテーマで語り始めた時に現れるものをきちんと拾い上げていくつもりでカバーしていかなければならない。 ○また, この検討会は年に数回しか行わず, 確認するだけになるかもしれないので, むしろ大事なのはWGの議論だと思う。あるいは, WG自身はヒアリングやワークショップ(以下WS), イベント等のアクションも伴って, いろいろな団体の方と手を組みながら新しい動きをつくっていくという形にな

	と思う。その時に、どうつなげていくかという話は検討会の役割ではなく、WGを担う方々が一緒に考えるとか、こちらで出た話をあちらに伝えるというような動きが重要になると思う。それがWGで生まれたら、検討会でオーソライズ（※）し、京都市がそれを受け止める。その筋道、大きな意味であり方を今の段階で合意しておくことは大事ではないか。 ○その中でタウンミーティングや小さなWGを行って、そこで拾い上げた呟きを集めることはとても大事である。そういうアクションを有効に行う、他所での話し合いにこちらのメンバーも参加する等、情報をきちんと伝えてほしい。MJだけ、協議会だけでは無理な話を、事務局機能、あるいは京都市、区役所、特にまちづくり推進担当、まちづくりアドバイザー等がつないでくれると良いと思う。 ○もう1点、行政がすべて縦割りで入っているが、これは止めて、少なくとも行政は行政で伏見区の中では情報共有する形をつくってほしい。 ○WGの進め方は横並びで同じように進むのではなく、WGごとに性格が違うので、それぞれメンバーで進め方も含めて議論しながら自由に進めていただきたい。 ※オーソライズ・・・正当と認めること。公認すること。
会長	○「商店街等活性化・交通問題WG」だけは京都文教大学の先生の取りまとめではなく、別の組織になるようだが、そのような形で進めることについてはどうか。
事務局	○商店街の活性化、あるいは小学校跡地、小中の隣のテニスコート等、空き地の活用もここで考える予定なので、このWGは公社、行政の方で議論を進めたい。他のWGは京都文教大学の先生方をお願いしたいと思っている。 ○補足として、「地域コミュニティ活性化・地域情報化・エリアマネジメントWG」は他のWGの上部組織的にイメージしており、各WG代表者等を想定メンバーに入れて、WG長会議的に各WGがどのような進め方をしているか等の取りまとめをするWGにしたいと考えている。
委員	◆ WG間の連携について ○一番下のWGを除く6つのWGはそれぞれ密接に関係すると思う。アンケート等も想定すると、まとめの時は6つのWGを横断的に検討することが必要になると思うので、WG間で互いに検討し合うことも想定してほしい。

委員	◆ WGの進め方について ○WGのあり方について原案を考えているが、京都文教大学の教員がまとめ役となるので、リストを見ていただいた段階で御意見を頂きたい。 ○スケジュールについては、各WGのまとめ役の教員で話し合ったところ、5月頃からそれぞれのWGを開始して、WGごとに開催日程を調整していただく。夏休みまでに2回程度、あるいはさらに増やしても結構なのでWGごとに検討していただきたい。 ○メンバーも最初の想定はあるが、進める中でいろいろな形で参加していただく等、WGの中で自由に決められるようにしたいので、御了解いただきたい。 ○一番大事なのはそれぞれの課題に特化して話すことだが、全部連動しているので、例えば、中国帰国者も介護の問題等では連携が必要である。その際、議論の中に当事者を入れても良いが、中国帰国者の方から「言葉が違うので、自分たちのデイサービスができる場所がほしい」という声も出ているので、それは別のところで会議をしながら連携していく等も考えている。 ○「地域コミュニティ活性化・地域情報化・エリアマネジメントWG」のまとめ役は私が行う予定だが、9月頃までに各WGで検討された内容を持ち寄って、後半に集中して連携を行い、行政ともどこのWGが連携するのか、どれをどのWGで行うのかという具体的な話を進める。そのために前半は各WGで住民も入って自由に議論を練るという進め方にしたい。 ○商店街の活性化で気になるのは、住民代表が入っていないことだが、どのように入れば良いか分からないので各WG代表者等となっている。前半でいろいろな問題が出てくると思うが、その中に各WG代表者が入っているので、WGの方から住民代表を出して参加していただく形にしたい。
委員	◆ 若者の意見の集約について ○若者や学生の意見はどこに反映されるのか。中学生向けのWSを開いて、中学生の意見を聞いてほしい。そして、若者にとっても魅力あるまちになるよう、最後の連携した取りまとめの中にその中学生の意見も集約される仕組みを別につくっていただきたい。
委員	◆ アクションを主とした自由な活動と連携する組織、情報発信について ○その意見は大事だと思うので、別組織ではなく、どこかのWGが走り出せば良いのではないかと。つまり、縄張りはないことをここで確認すれば良いと思う。WGはアクションなので、頑張るWGが枠を広げていけば良いし、向島ニュータウンの中でいろいろなアクションを起こしながら、中学生のWSも

	中学校で行う場合やMJで行う場合等、いろいろなアイデアが出てくると思う。商店街の話も同様である。そういうところまで動き出すWGをつくることを考えた方が良いのではないかな。 ○また、ここで議論する話が一番大事であり、同時に向島の新しい担い手の出現を待つという意味で人材発掘や、地域活性化の動きに住民の声を活かしていくというアクションプランになるのではないかな。むしろ、ここでいろいろな人が横につながりながら、それぞれで発掘されたやる気のある人が、頑張っているところに顔を出して一緒に検討する場面がある方が良いと思う。 WGごとに縄張りを固定するのではなく、自由に進めた方が良い。 ○その際、事務局は、各WGの活動内容を横に連絡するようなWGニュース的なものを作ってほしい。 ○もう1つ、このような全体の動きを向島の人たちに伝える全戸配布ニュースのようなものも作ってほしい。事務局に担当していただき、WGの中で有志メンバーが集まって一緒に作るという構図ができないかな。これは費用がかかる話だが、異論がなければそういう方向で検討しようというところまで確認できると良いと思う。 ◆ 教育の視点について ○中学生には声をかけていくようにしたい。 ○WGのネーミングで、「子育て充実WG」は住民目線では「子育て」だが、「教育」も重要と考えるので「子育て・教育～」と入れていただきたい。 ○それもWGの中で考えていただいて良いと思う。 ○出された意見に対して、特に杉本委員や乾委員の進め方に関する意見については反論がなかったと思うので、そのような形でWGを進めるということで良いかな。（異議なし） では、そのように進めていただきたい。 ○まちづくりビジョン自体が、予めシナリオがあるのではなく、むしろいろいろなシナリオを出していただきたい。かつ1つに決める必要はないので、いろいろなビジョンを出していただくことが大事である。多様な考え方を出していただくことがこの検討会の役割だと思っている。枠組みを固く決めて実行するという従来の計画論的な発想を捨てて、議論をしていただきたい。
委員	
会長	

会長	4 今後のスケジュール ○それでは、今後のスケジュールについて説明していただく。
事務局	○（資料7について説明）
会長	○スケジュールのガイドラインとして理解していただきたい。進めるうちに変更があって、最終的に行われた姿が全体のフローになると思う。
委員	■ その他 ◆ 活動資金について ○WGは動くほど費用がかかるので、WGが動く資金、京都文教大学の先生方が動く資金は用意していただきたい。
事務局	○予算には限度があるが、WGが活動される場合は、いろいろな仕組を用いて、状況に応じて財政当局と調整したい。WGの開催の経費が足りないようなことがないように、しっかりと確保したい。
会長	○決意表明を頂き、有難いと思う。
委員	◆ 向島、向島南学区との関わり方について ○この検討会は向島ニュータウンが対象なので、従来からの向島学区、向島南学区はどのような関わり方をすれば良いのかが悩みどころである。現状でもニュータウンとは多少の関わりを持っているが、本格的な関わりはない。従来の住宅部分にないものとして、ニュータウンには広いスペースがあるので、補完することも考えられると思う。そういう観点も今後のWGの方で検討をお願いしたい。
会長	○他に御意見がなければ、すべての議事を終了し、閉会としたい。 ○進行を事務局にお返しする。
事務局	■ 閉会 ○今後、基本的にWGでいろいろな御意見を頂き、それをまとめていきたい。柔軟に進めていきたいという御意見を頂いたので、状況を見ながら、行政としてどのような形で進めていくかを考えたい。 ○また、庁内全体で認識できるよう、市役所に持ち帰って各部署にしっかりと伝えることも我々の使命なので、それも踏まえて取り組んでいきたい。

	以 上
--	-----